

調査の概要

- (1)調査の目的
 ○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2)調査の対象学年 小学校第6学年(4月17日に調査を実施した学校・児童生徒数 門真市:14校 927人)
 中学校第3学年(同 門真市:6校 859人)
- (3)調査内容 ①教科に関する調査 主として「知識」に関する問題(国語A、算数・数学A)
 主として「活用」に関する問題(国語B、算数・数学B)

調査結果の概要

- 小学校
 国語・算数ともにA・B両区分において、平均正答率での対全国・対府平均を下回っておりますが、標準化得点を活用した対国推移と比較すると、すべての区分において、平成29年度よりも大きく上昇し、成果が見られます。理科においては、前回実施いたしました平成27年度よりも標準化得点を活用した対国推移では大きく上昇しております。無解答率については平成29年度よりも大きく改善されておりますが、引き続き課題として取り組む必要があります。
- 中学校
 国語・算数ともにA・B両区分において、平均正答率での対全国・対府平均を下回っておりますが、標準化得点を活用した対国推移と比較すると、すべての区分において、平成29年度よりも大きく上昇しております。理科においては、前回実施いたしました平成27年度よりも標準化得点を活用した対国推移では少し低下しております。無解答率については平成29年度よりも大きく改善されておりますが、引き続き課題として取り組む必要があります。

校種・教科・区分別正答率 2か年の比較

校種	平成29年度			平成30年度			
	門真市	大阪府	全国	門真市	大阪府	全国	
小学校	国語A	66.0	72.0	74.8	63.0	68.0	70.7
	国語B	47.0	54.0	57.5	47.0	52.0	54.7
	算数A	73.0	78.0	78.6	61.0	63.0	63.5
	算数B	37.0	45.0	45.9	46.0	51.0	51.5
	理科	-	-	-	53.0	57.0	60.3
中学校	国語A	71.0	75.0	77.4	70.0	75.0	76.1
	国語B	62.0	69.0	72.2	55.0	59.0	61.2
	数学A	58.0	64.0	64.6	60.0	65.0	66.1
	数学B	40.0	46.0	48.1	40.0	46.0	46.9
	理科	-	-	-	59.0	64.0	66.1

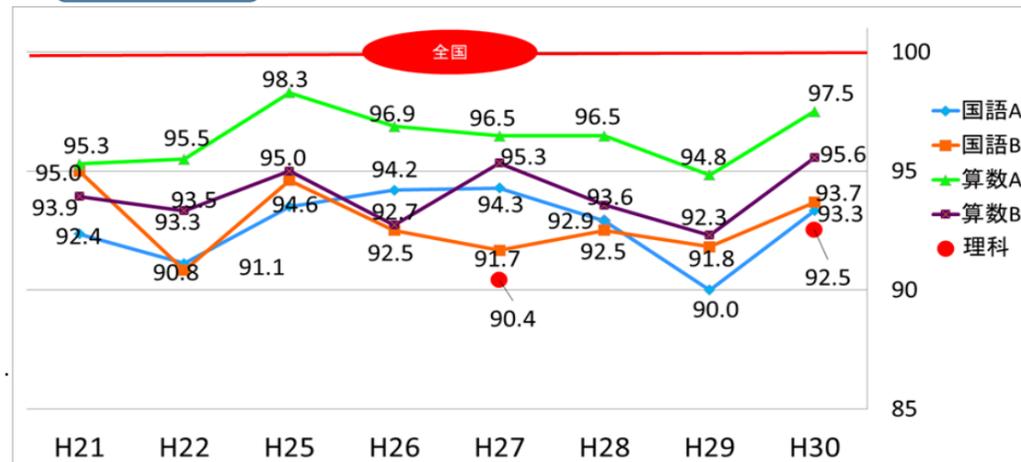
※ 平成30年度の正答率の値は、文科省から整数の値で提供されたため、小数点以下は表記していません。

今回お知らせする調査結果は、学力や学習の一部分であり、子ども達の学力や学習状況、学校の教育活動などの全てを表すものではありません。

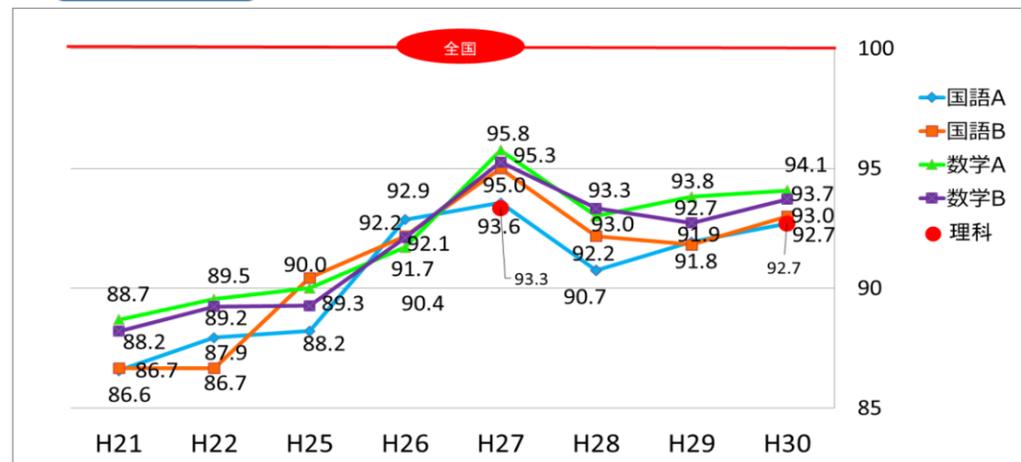
標準化得点を活用した対全国比経年比較※1

小学校

H23.24の全国調査は悉皆実施ではなかったため記載していません。



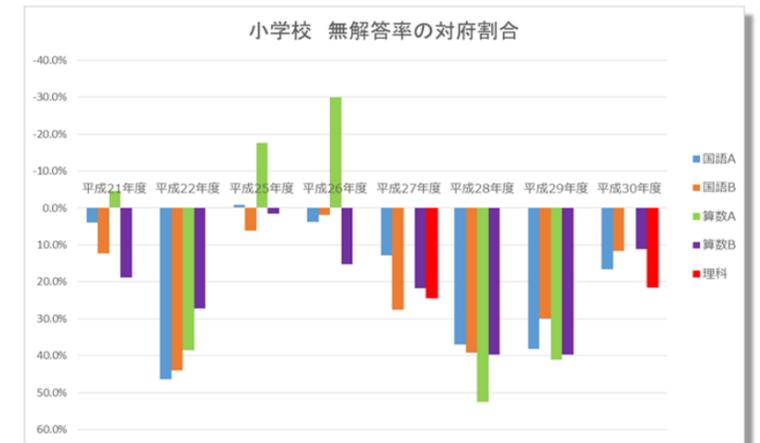
中学校



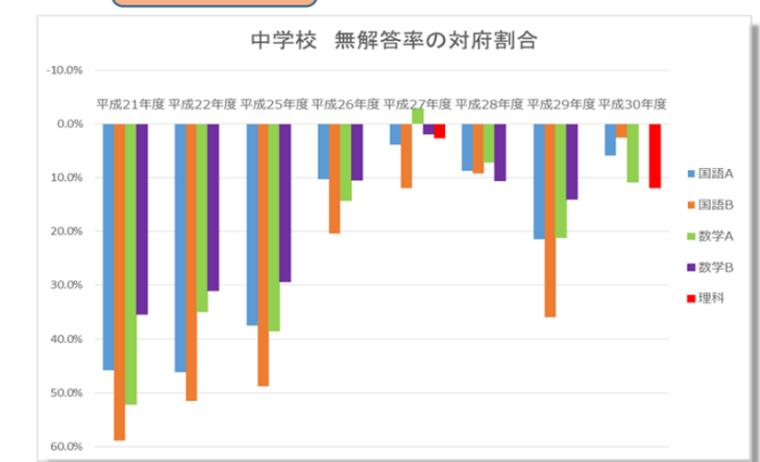
※1 標準化得点は、全国平均との関係について年度間の相対的な比較ができるよう、計算されたものです。

無解答率の対府割合経年比較※2

小学校



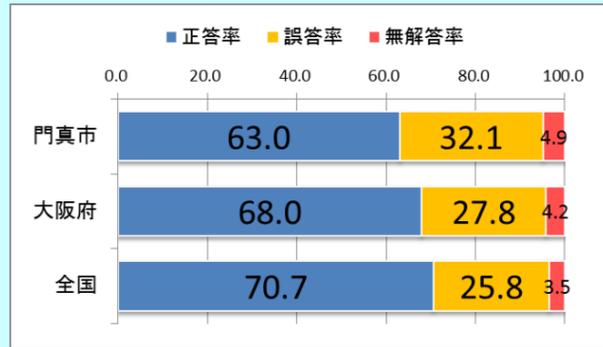
中学校



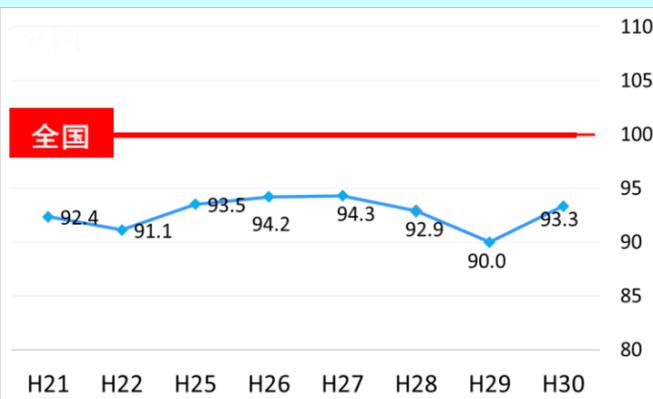
※2 対府割合経年比較の数値は大阪府を0%とした時の割合を%で表したものです。

国語A区分(主に「知識」に関する問題)

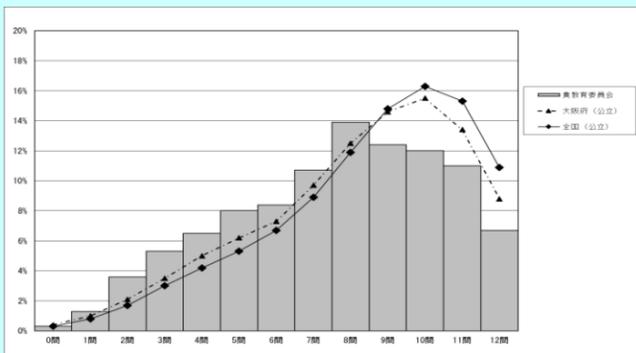
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



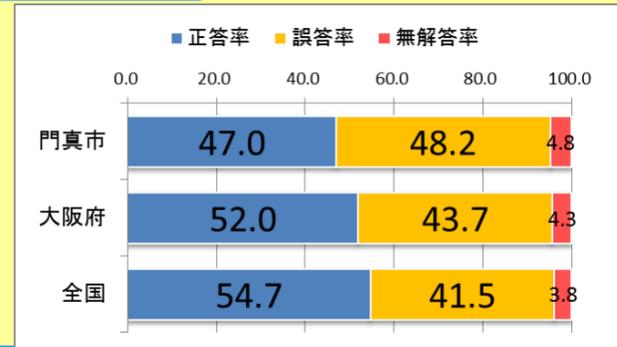
正答数分布



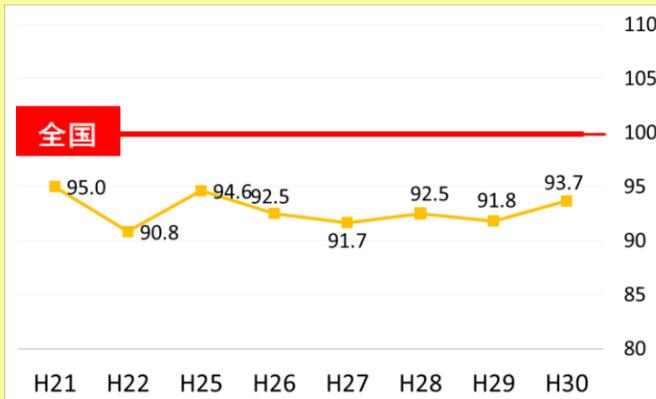
- ◆平均正答率は、大阪府を5ポイント、全国を7.7ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より3.3ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低・中間層が多い。

国語B区分(主に「活用」に関する問題)

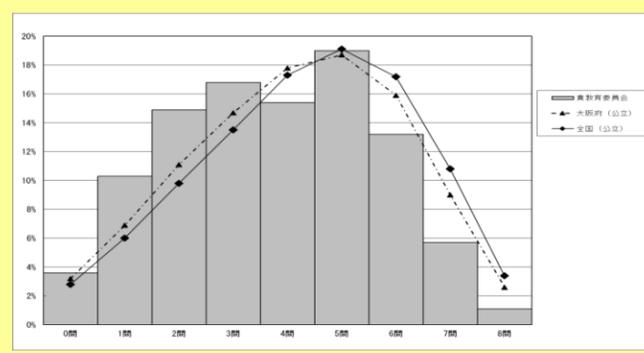
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布



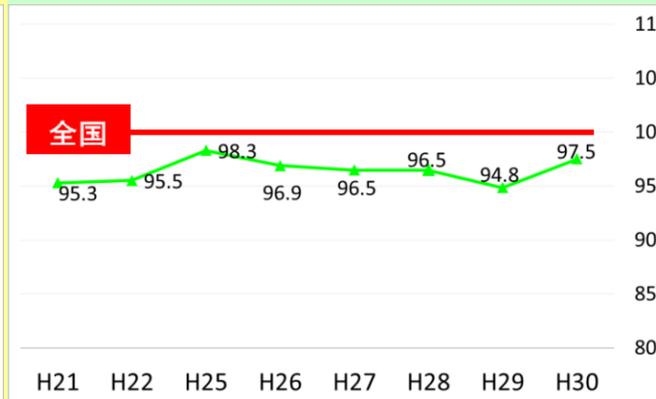
- ◆平均正答率は、大阪府を5ポイント、全国を7.7ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より1.9ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低位層が多い。

算数A区分(主に「知識」に関する問題)

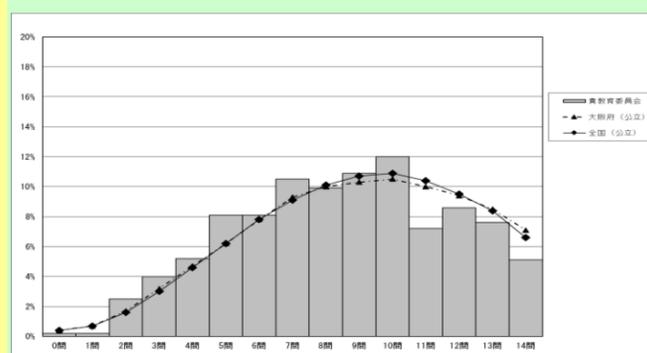
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



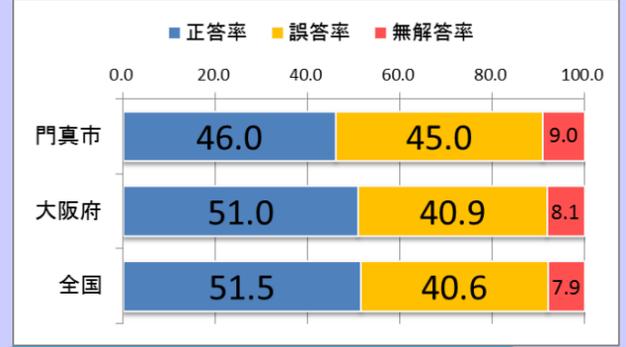
正答数分布



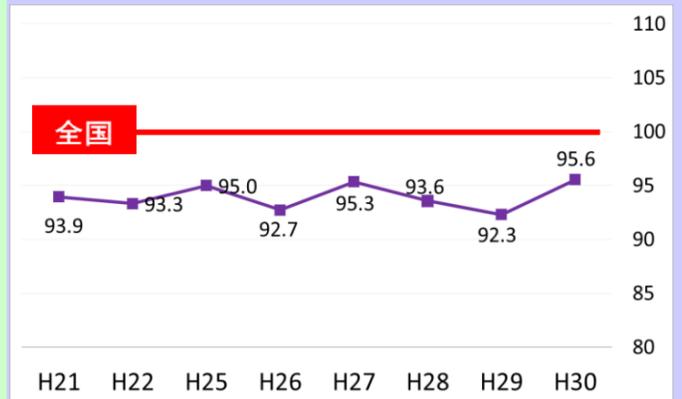
- ◆平均正答率は、大阪府を2ポイント、全国を2.5ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より2.7ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低位層が多い。

算数B区分(主に「活用」に関する問題)

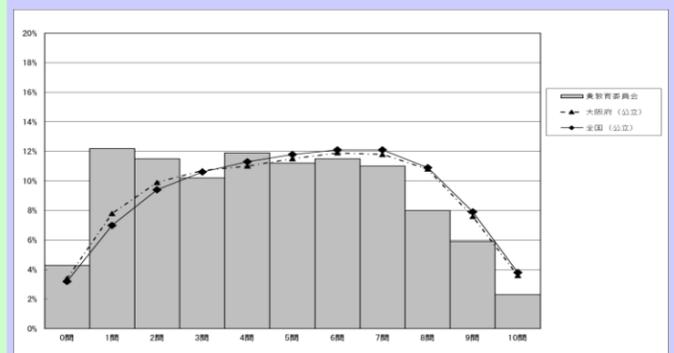
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



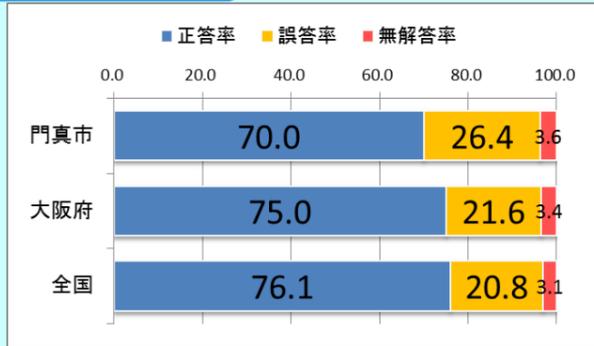
正答数分布



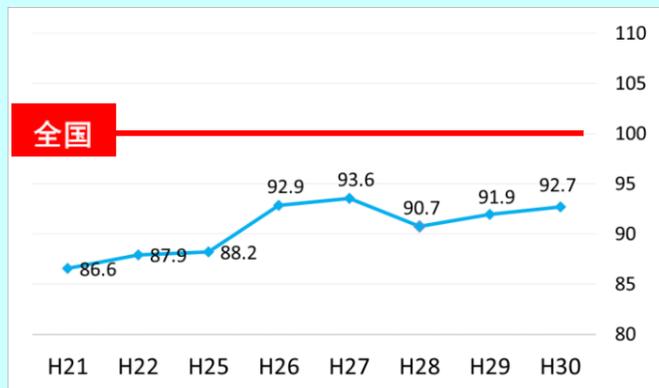
- ◆平均正答率は、大阪府を5ポイント、全国を5.5ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より3.3ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、1～4問の正答数の児童がピークで、低位層が多く、高位層が少ない。

国語A区分 (主に「知識」に関する問題)

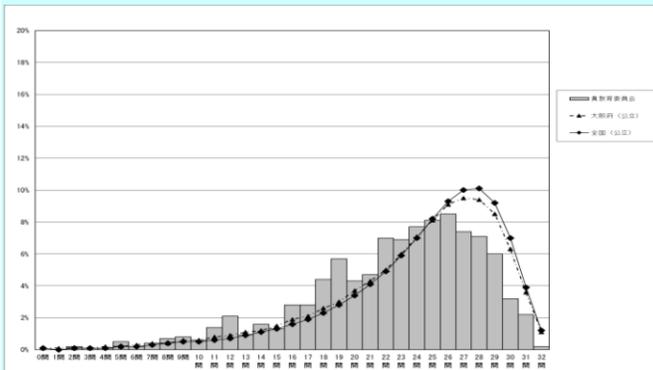
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した対全国比経年比較



正答数分布



- ◆平均正答率は、大阪府を5ポイント、全国を6.1ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より0.8ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、中位層が多い。

国語B区分 (主に「活用」に関する問題)

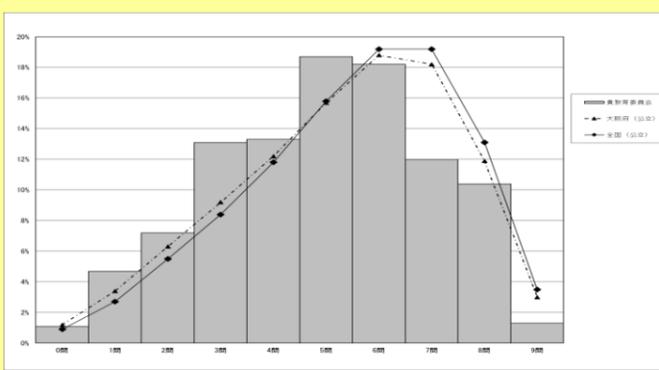
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した対全国比経年比較



正答数分布



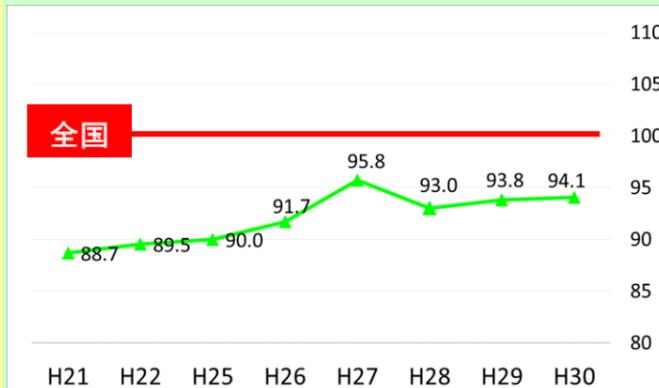
- ◆平均正答率は、大阪府を4ポイント、全国を6.2ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より1.2ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低・中位層が多い。

数学A区分 (主に「知識」に関する問題)

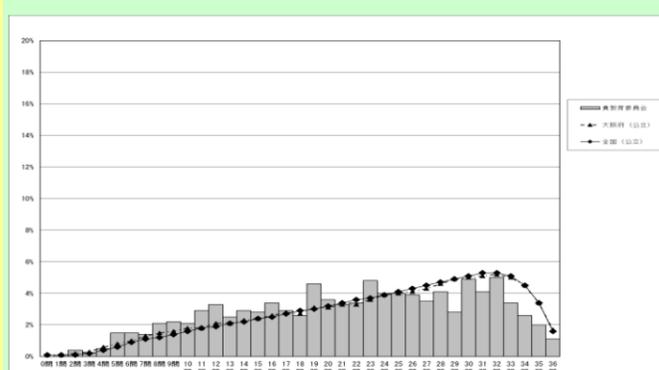
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した対全国比経年比較



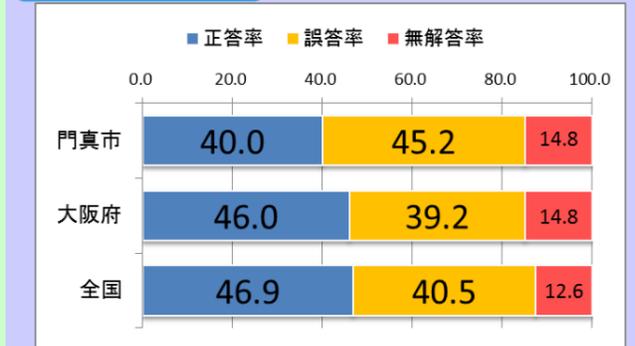
正答数分布



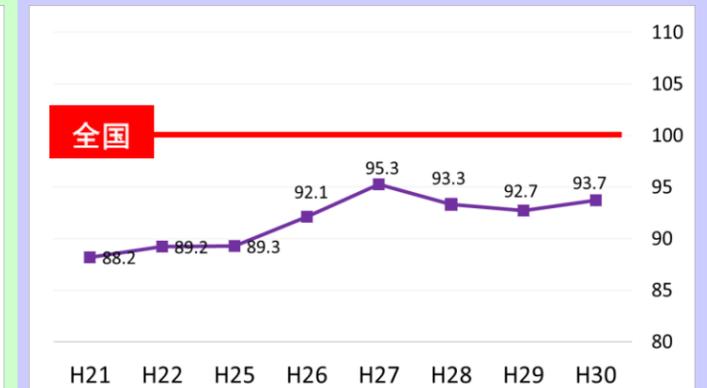
- ◆平均正答率は、大阪府を5ポイント、全国を6.1ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より0.3ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低・中位層が多い。

数学B区分 (主に「活用」に関する問題)

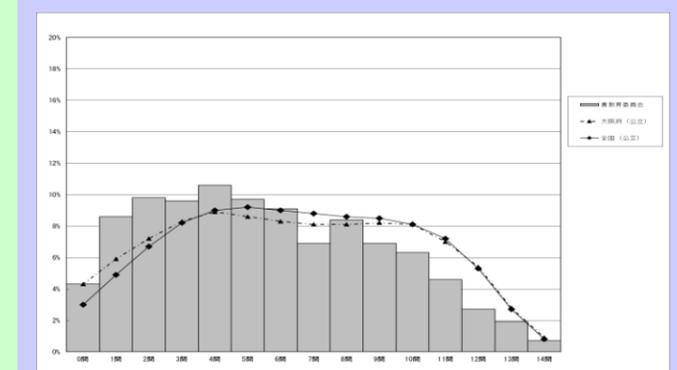
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した対全国比経年比較



正答数分布



- ◆平均正答率は、大阪府を6ポイント、全国を0.9ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H29より1.0ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低位層が多い。

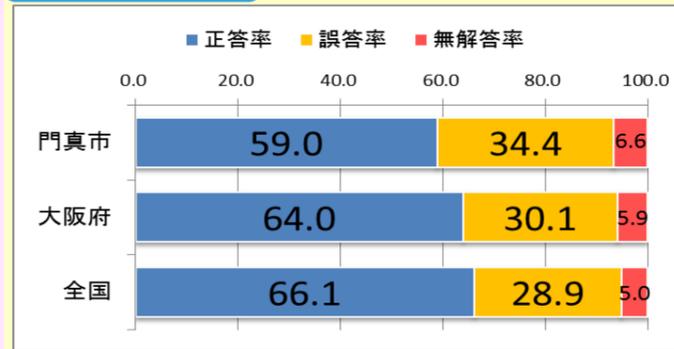
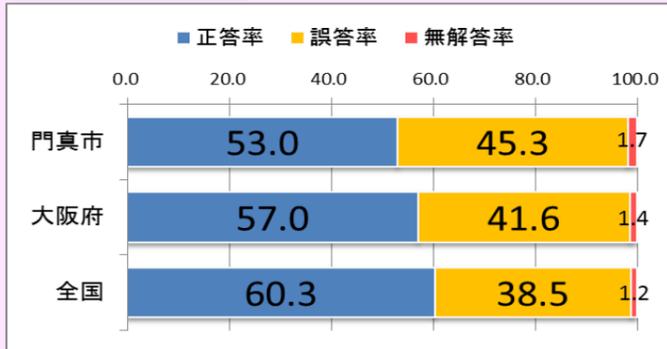
小学校 理科

中学校 理科

正答率比較

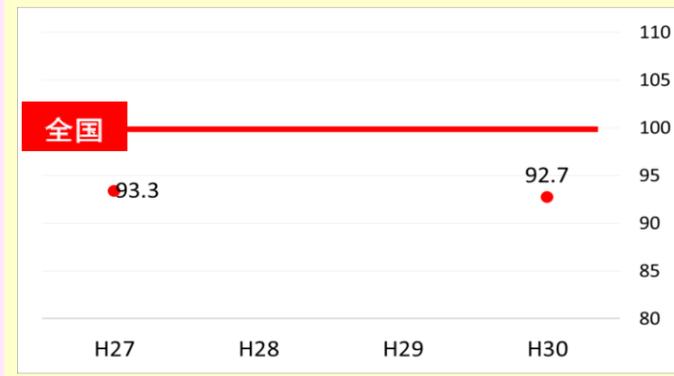
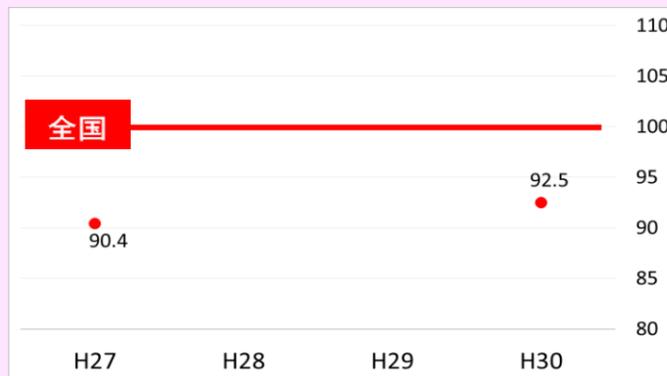
正答率比較

※ 理科は27年度に悉皆調査があったため、経年比較を記載しておりません。



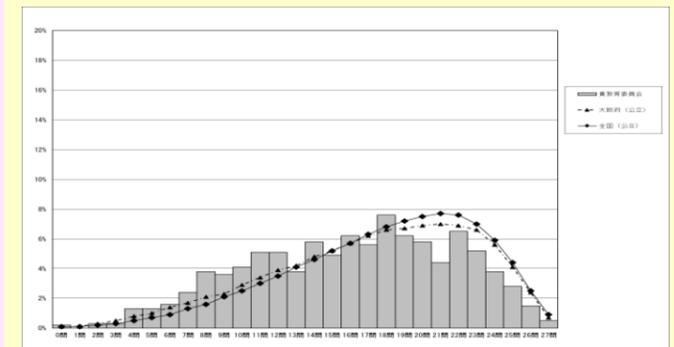
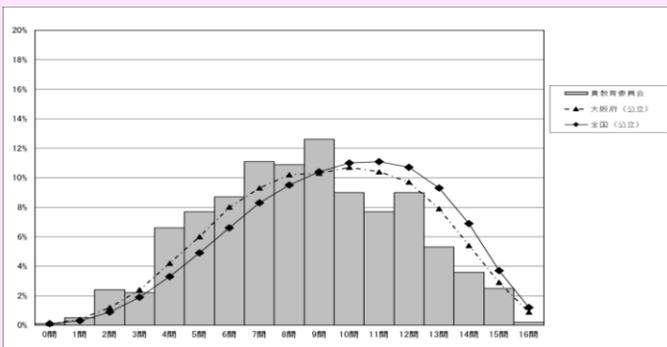
文科省による標準化得点を活用した対全国比経年比較

文科省による標準化得点を活用した対全国比経年比較



正答数分布

正答数分布



- ◆平均正答率は、大阪府を4ポイント、全国を7.3ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H27より2.1ポイント上昇し、全国との差が改善した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低・中位層が多い。

- ◆平均正答率は、大阪府を5ポイント、全国を7.1ポイント下回った。
- ◆標準化得点の対全国比は、H27より0.6ポイント下降し、全国との差が拡大した。
- ◆正答数分布の様子は、全国や大阪府と比べて高位層が少なく、低位層が多い。

小学校(第6学年)

児 ... 児童質問紙調査

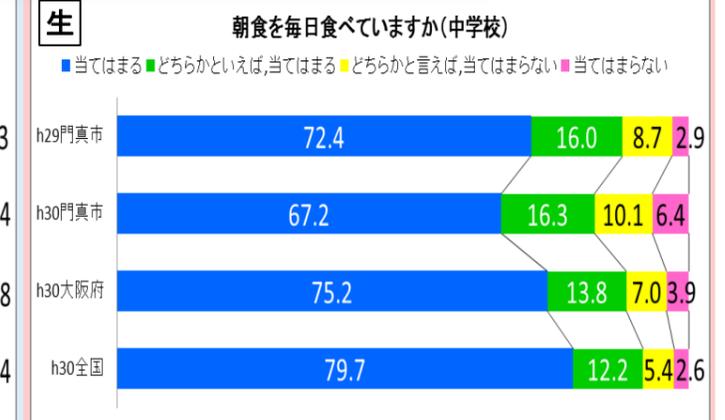
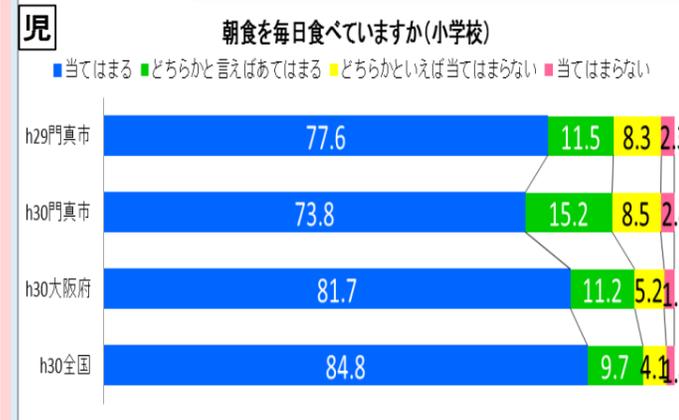
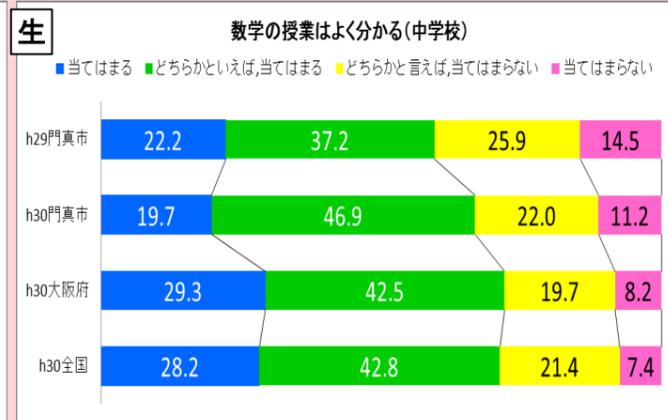
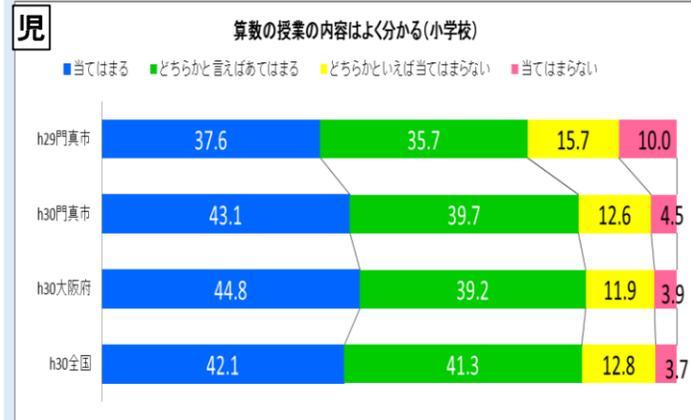
算数・数学の学習内容理解は、児童生徒ともに増加
(児童生徒質問紙調査より)

中学校(第3学年)

生 ... 生徒質問紙調査

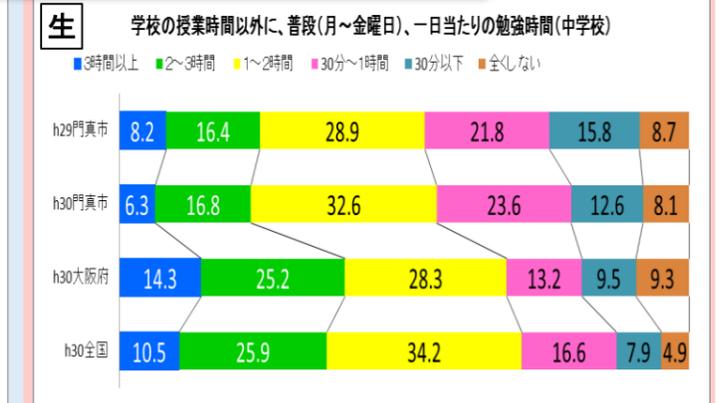
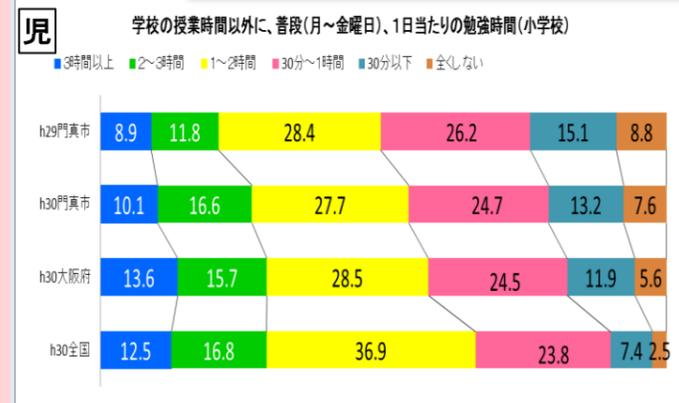
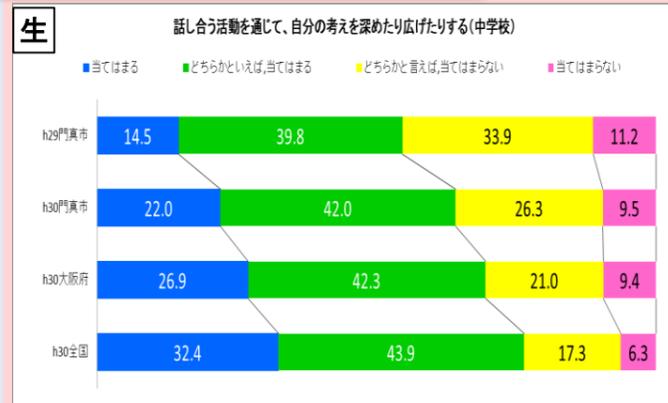
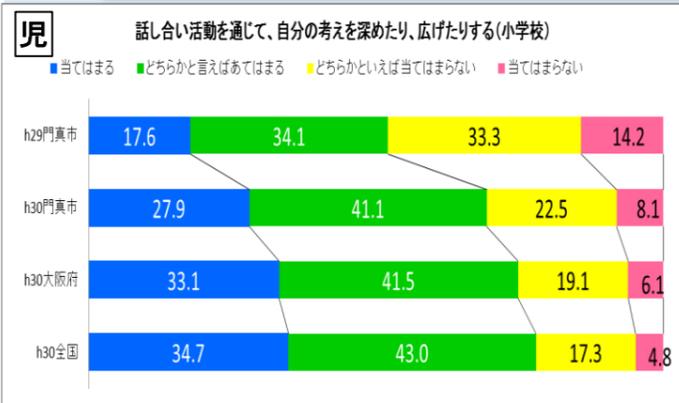
朝食を毎日食べている児童生徒の割合は減少
(児童生徒質問紙調査より)

中学校(第3学年)



話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている児童生徒が増加
(児童生徒質問紙調査より)

家庭学習の時間は、児童生徒ともに増加
(児童生徒質問紙調査より)



自分には、よいところがあると思う児童生徒が増加
(児童生徒質問紙調査より)

読書をする時間は、児童生徒ともに増加
(児童生徒質問紙調査より)

